

成果の説明書

(氏名) 木暮 律子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>観光学を学ぶ留学生のための専門日本語教材の作成を目指し、観光学専門用語の基礎調査を行った。6種類の観光学辞典の見出し語の使用頻度をもとに、観光学の基本専門用語308語を選定し、形式、語種、意味分野の3つの観点から、基本専門用語の特徴と指導上の課題について考察した。得られた成果は以下の論文にまとめた。</p> <p>「観光学における基本専門用語—その特徴と指導上の課題—」『専門日本語教育研究』第17号 専門日本語教育学会 pp.41-46</p> <p>【教育上の取組み】</p> <p>①ゼミナール活動</p> <p>◇3年生：グループ研究の実施</p> <p>「演習Ⅰ」では、毎年グループで研究に取り組んでおり、研究テーマの設定から調査の計画・実施、報告まで学生が主体的に進めている。今年度は2つのグループに分かれ、「日本人観光客を対象とした横浜中華街における観光サービス」、「日本とドイツの大学生の選挙への関心の差異」というテーマでそれぞれ調査を実施した。グループ研究の成果は、卒業論文集に調査報告書としてまとめ、春休みのゼミ合宿で発表した。</p> <p>◇2年生：外国人のためのメニュー表の作成</p> <p>2年生を対象としたプレゼミ活動において、外国人にとってわかりやすいメニュー表の表記方法を検討し、店員や訪問客の英語・日本語能力によって使い分けられる3種類のメニュー表を作成した。また、日本の飲食店を利用する際に必要となる知識や表現を学べる解説書の作成にも取り組んだ。</p> <p>②アクティブ・ラーニングの実践</p> <p>「多文化共生論」の講義において、学生自らが問題を発見し、解決に向けた課題を議論する活動を取り入れ、学生の能動的な学びを引き出していけるように工夫した。また、ワークシートの提出を通して受講生の理解度をはかり、学生が持つ疑問を授業展開にも反映させるよう努めた。</p> <p>③異文化コミュニケーション能力の育成</p> <p>「異文化コミュニケーション」の講義において、留学生と日本人学生による異文化間協働のグループワークを実施し、日本語弱者の立場に立った話し方・書き方の実践的なトレーニングを行った。</p> <p>【社会活動】</p> <ul style="list-style-type: none">・群馬県情報公開審議会委員(平成23年10月1日～平成27年9月30日)・高崎市社会教育委員(平成27年7月1日～)	
<p>2 その他の事項</p> <p>『留学生生活応援ブック』の作成：留学生のための大学生活ハンドブックを作成し、新入留学生に配布した。この冊子は大学生活に必要な日本語表現や高崎市の生活情報を、留学生にも理解しやすいやさしい日本語で解説したもので、ゼミ活動の一環として2009年より毎年作成している。今年度は事務局の組織名称等を修正し、冊子の改訂を行った。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>次年度も引き続き観光学用語の研究を進めていく予定である。観光学の視点から中学・高校の教科書調査を行い、入学時における日本人学生と留学生とのレディネスの差を明らかにしたうえで、留学生に対する専門導入教育の方法を探っていきたい。</p>	